

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月22日

事業所名 おおすみKids

|                  |    | チェック項目                                                     | はい | いいえ | 工夫している点                                                                    | 課題や改善すべき点を踏まえた<br>改善内容又は改善目標 |
|------------------|----|------------------------------------------------------------|----|-----|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 環境・<br>体制整備      | 1  | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である                                  | ○  |     | 多目的ホールや個別スペース等十分な広さの活動スペースを確保している                                          |                              |
|                  | 2  | 職員の配置数は適切である                                               | ○  |     | 正規職員保育士2名、児童指導員1名、非常勤保育士2名、その他非常勤1名となっている                                  |                              |
|                  | 3  | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている                           | ○  |     | 床もフラットになっており、トイレ洗面所も小さい児童用に低く使いやすいようになっている                                 |                              |
| 業務改善             | 4  | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している                | ○  |     | 一年間の目標を立て、振り返りシートに1年間の自分の振り返りを行っている                                        |                              |
|                  | 5  | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている     | ○  |     | 保護者会等も行いながら保護者の意見を十分に把握しながら改善があればその都度改善している                                |                              |
|                  | 6  | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している                           | ○  |     | ホームページで公開している                                                              |                              |
|                  | 7  | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている                             | ○  |     | 社会福祉法人全体で第三者外部の評価を行って改善があれば改善に努めている                                        |                              |
|                  | 8  | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している                                | ○  |     | 法人全体の会議・研修・外部研修等を確保しながら全員が幅広い研修に参加できるようになっている                              |                              |
| 適切な<br>支援の<br>提供 | 9  | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | ○  |     | 保育所等訪問支援事業も展開している為、学校、保護者を含め各関係機関とも相談しながら必ずケース会議等を行っている                    |                              |
|                  | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している                 | ○  |     | 職員が学校の先生方と情報共有を図って意見交換を行いながら取り組んでいる                                        |                              |
|                  | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている                                       | ○  |     | 子ども達がやりたい、してみたいとの意見等も活動の内容に取り入れながら職員全体で計画を立てている                            |                              |
|                  | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している                                     | ○  |     | 季節ごとの行事等を話し合う場を設け、固定化しないように毎週必ず話し合いを行っている                                  |                              |
|                  | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している                         | ○  |     | 長期休暇に関しては時間等の配分を考え個別や社会体験、自然活動を取り入れ、やったことのない未知の世界を体験させ沢山の知識が増えていけるよう工夫している |                              |
|                  | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している            | ○  |     | 個別支援や小集団活動を午前、午後と組み合わせながら子どもの状況に応じて計画を作成している                               |                              |
|                  | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している             | ○  |     | 毎日朝礼等で送迎、学校の様子等を話し合い、その日の状況等を確認し合っている                                      |                              |
|                  | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している        | ○  |     | 記録を作成する際は、一人で作成せず、振り返りを行いながら保護者へその日の活動記録を写真をつけて送付している                      |                              |
|                  | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている                    | ○  |     | 上記同じ                                                                       |                              |
|                  | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している                  | ○  |     | モニタリングは定期的に、家庭訪問や電話等で行い学校、保護者、母親、父親、祖父母が関わっている所は祖父母などからも意見をもらっている          |                              |
|                  | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている                             | ○  |     | 運動面、生活面、社会性等、個人の能力に合わせ支援を行っている                                             |                              |

|              |    |                                                                       |   |  |                                                                          |
|--------------|----|-----------------------------------------------------------------------|---|--|--------------------------------------------------------------------------|
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している                     | ○ |  | 担当者会議は保育士、児発管等が参加している                                                    |
|              | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ |  | 学校側から週報、時間割等メールやFAXで頂き、保護者からもメール等で確認をとりながら調整を行っている                       |
|              | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている                             | ○ |  | 医療的ケアはありません                                                              |
|              | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている                | ○ |  | 保育所等訪問支援事業で訪れる保育所等で以前の担任と情報共有を図ったり、SNS等を通じて相互理解に努めている                    |
|              | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している     | ○ |  | 移行する場合も定期的に訪問したり、情報提供を行っている                                              |
|              | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている                          | ○ |  | 専門機関とは連携しながら助言研修を職員が定期的に受けている                                            |
|              | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある                                 | ○ |  | 地域開放を行っている為、5時間目の月曜日等は一緒に広場でバスケットをしたり、野球をしたり、ドッチボールをしたり地域交流を行っている        |
|              | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している                                               | ○ |  | 鹿屋市の連絡協議会等への会議に定期的に参加している                                                |
|              | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている                        | ○ |  | 毎日保護者へ活動記録を伝え、メールや電話でのやりとりを行いながら共通理解を深めている                               |
| 保護者への説明責任等   | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている                       | ○ |  | 保護者に対して家族支援プログラムを提案しているが、なかなか保護者様の反応が薄い状況等がある為難しい課題ではあると考えている            |
|              | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている                                      | ○ |  | 必ず担当者会議等で説明を行っている。                                                       |
|              | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている                              | ○ |  | 法人内に心理師がいる為、深い悩みやあまり公表できないことは個別に時間を設けて話し合いの場を設けている                       |
|              | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している                          | ○ |  | 保護者会は年1回開催しており、保護者同士の連携や連絡交換等を行っている                                      |
|              | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している    | ○ |  | 相談等があれば、その都度、保育園や学校からも情報をもらいながら、場合によっては学校や子ども園等に出向いて相談員さんを含めケース会議等を行っている |
|              | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している                      | ○ |  | 毎月管理表やおたよりを発行し、保護者に対して情報を発信している。また、SNSなどを通じて情報を発信している                    |
|              | 35 | 個人情報に十分注意している                                                         | ○ |  | 個人情報の取り扱いに関しては同意書を頂き、十分に注意している                                           |
|              | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている                                  | ○ |  | 家庭訪問等を行い、複数の職員、相談員さんなどを含め言ったの言わないのにならないように記録をとりながら情報伝達をしている              |
|              | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている                                    | ○ |  | 地域開放をしている為、クリスマス会や餅つき等地域住民との連携を図っている                                     |

|         |    |                                                                                |   |                                                                                                      |
|---------|----|--------------------------------------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している                                | ○ | 消防署職員立ち合いの元、計画通りに訓練を実施している                                                                           |
|         | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている                                             | ○ | 定期的な避難訓練を実施している                                                                                      |
|         | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている                                             | ○ | 同じ法人に児童養護施設がある為、定期的に虐待防止の研修に参加している                                                                   |
|         | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | 基本的に身体拘束は行わないことにしているが、やむを得ずその場面があれば保護者にアセスメント時に聞いて、理解を求めているが、事業所内で何か暴れたり、問題行動があればすぐに迎えに来てもらうようにしている。 |
|         | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている                                           | ○ | 利用事前に食物アレルギーの対応があれば聞き取りを行っている                                                                        |
|         | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している                                                      | ○ | ヒヤリハットがあれば、書面を作成し共有し職員会議等で幅広く情報共有している                                                                |